



■ テーマ名

新科目「歴史総合」の導入に対する高大接続のための初年次教育の再構築

■ キーワード

高大接続、学士力向上、初年次教育、大学での歴史教育、「歴史総合」

■ 研究の概要

大学入学生の多くで歴史の基礎知識に偏りが見られます。また、公募制推薦入試または一般入試において、地歴科を受験で使わない学生が増えており、文系学部では、世界史・日本史の知識が不十分なまま学部の専門的な学びに入っていく現状にあります。今後、高校の新科目「歴史総合」では通史を教えないため、大学の初年次教育における歴史系科目の再構築は焦眉の課題であると考えます。

学士力向上のために、高校での学習内容と入学生の科目履修状況を把握し、各学部が求める基礎教養のレベルやコンテンツについて、学部の専門分野につなげる歴史系初年次科目を構築していきます。

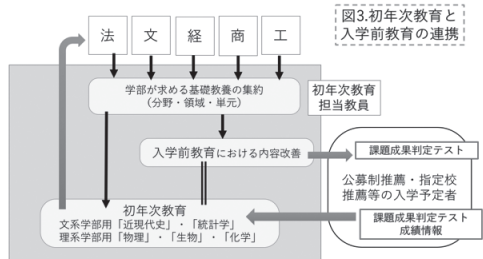


図3.初年次教育と入学前教育の連携

■ 他の研究／技術との相違点

進路指導と入試改革を主眼とする高大連携ではなく、大学の学部教育で求める基礎教養という視点から高大連携の教育内容を再構築するものです。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

大学での初年次教育における歴史系科目の目的を明確にし、学部教員と連携して授業内容を精査することで、学部へ送り出す学生のレベル向上が期待できます。

■ 関連業績 (特許・文献)

- 帝国書院世界史教科書「新詳世界史B」教員用指導資料 (2018年版) 分担執筆
- 「高大接続から見た大学の初年次教育のあり方について」関西大学高等教育研究第10号 (2019年3月)
- 「新科目「歴史総合」の実施に対する大学教職科目の修正案」関西大学教職支援センター年報2018年
- 「大学教育における歴史系教養科目のあり方について —歴史教育における高大接続—」教育開発ジャーナル第11号 (2021年3月)

■ 研究者から一言

日本の多くの大学が直面している喫緊の課題です。高大連携の本領は入試改革ではなく教育連携・カリキュラム連携にあり、現実的な提案でなければ意味がありません。

人文・心理・教育・グローバル